

東日本大震災：海外の報道から

被災した東北大学の復興状況

ターゲットタンパクプログラム参画の青木淳賢研究室を含む東北大学の復興状況報告
July 8, 2011, Science: News Focus, © 2011 AAAS/Science

農産物の放射性降下物のほとんどは表面に蓄積

表面汚染土のクリーンアップが必要
July 12, 2011, Nature News, © 2011 NPG

日本の地震学、改革の時（日本語翻訳記事）

東京大学のロバート・ゲラー教授は「日本政府は、欠陥手法を用いた確率論的地震動予測も、仮想にすぎない東海地震に基づく不毛な短期的地震予知も、即刻やめるべきだ」と主張する
April 14, 2011, Nature:Comment, © 2011 NPG

福島を覆う長く暗い影

汚染された地域と住民に及ぼす長期の影響を決めるのは、チェルノブイリ原発爆発事故の先例に見られる通り、半減期 30 年のセシウム 137 である
April 5, 2011, Nature: World View, © 2011 NPG

遅すぎた大地震に関する科学的コンセンサス

869 年（貞観 11 年）に起きた貞観地震・津波の解析から、約 1000 年に一度の頻度で仙台湾沖で巨大な津波が発生する可能性が懸念されていた
April 1, 2011, Science: News & Analysis, © 2011 AAAS/Science

福島原発の三つの疑義

1 個所に 6 機の原子炉、軽水炉固有の問題点、原発サイトでの使用済み燃料棒の貯蔵
March 30, 2011, Nature News, © 2011 NPG

藻類が放射性廃棄物の濃縮貯蔵に役立つかもしれない

ある種の藻類の持つカルシウムを避けてストロンチウムを選択的に取り込む能力が放射性廃棄物処理に利用できるかもしれない (ChemSusChem)
March 30, 2011, Nature News, © 2011 NPG

チェルノブイリが遺したもの（日本語翻訳記事）

チェルノブイリ原発爆発事故から 25 年経ち、クリーンアップ作業は長期化し、健康被害に関する調査研究は躓いている。日本にとっての教訓はあるだろうか？ Nature 誌ニュースエディターによる現地ルポを交えた解説

March 28, 2011, Nature News, © 2011 NPG

放射線リスク評価

1945 年に広島と長崎に投下された原爆被爆者 9 万 4 千人の 63 年間に渡る追跡調査は、放射線リスク評価のゴールドスタンダードである

March 25, 2011, Science: News & Analysis, © 2011 AAAS/Science

日本の研究施設のダメージ

Science 誌による東北大学、高エネルギー加速器研究機構などの状況速報

March 25, 2011, Science: News & Analysis, © 2011 AAAS/Science

放射線被ばく治療薬開発の現状

放射線被ばくの影響を防ぐことを目指したいくつかの薬剤候補の開発が進んでいる。しかし、この未だ有効な治療法がない医療ニーズに取り組むグループは少ない

March 25, 2011, Science: News & Analysis, © 2011 AAAS/Science

復興への長い道のり

東日本大震災：3 月 24 日号 Nature 誌の論説

March 24, 2011, Nature Editorials, © 2011 NPG

大震災に見舞われた日本の科学研究

Nature News 誌による東北大学、高エネルギー加速器研究機構などの状況速報

March 21, 2011, Nature News, © 2011 NPG

予想外の場所で発生した巨大地震（日本語翻訳記事）

ほとんどの専門家は、日本の三陸沖の地震帯がこれほど大きな地震を引き起こすとは思っていなかった

March 17, 2011, Nature News, © 2011 NPG